



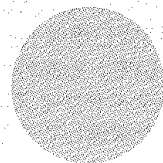
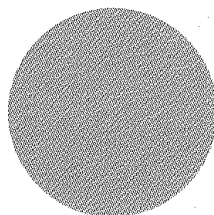
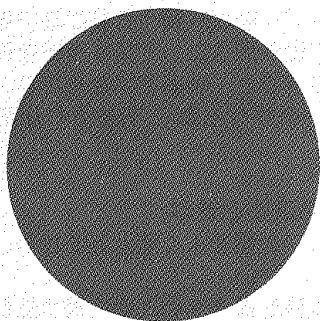
5 車との上手な付き合いかた

●寒冷時の取り扱い

164

●こんなときは

170



寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

■エンジンオイル

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。(191ページ参照)

■冷却水

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12℃
寒冷地	50%	-35℃

■ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

■冬用タイヤ、タイヤチェーン

- 冬用タイヤに取り替えるときは、4輪とも指定サイズの同一銘柄のものに交換してください。
- 4WD車は121ページの「タイヤについて」もあわせてお読みください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。

運転する前に

■屋根に積もった雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。走行する前に取り除いてください。

■ガラスについた雪や霜

ウインドウガラスの雪や霜を落として視界を確保してください。プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

■足まわりの霜氷

足まわりなどに付着した氷塊を車体などに傷をつけないように取り除いてください。

■ドアの凍結

ドアが凍結したときは無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。そんなときはお湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分ふき取ってください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウインドウなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりをおこすおそれがあります。

■車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから、乗車してください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

走行するときは

● 滑りやすい路面の走行

- ゆっくりスタートし、ひかえめな速度で走行してください。また、“急”のつく動作は避けてください。橋の上や日陰など凍結しやすい場所では減速してください。
- 積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。
- ツアラーV、ツアラーSに装着されているハイグリップタイヤは一般走行時でのグリップ性能を重視して作られています。積雪路、凍結路では一般のタイヤに比べグリップ性能がより低下します。積雪路、凍結路では必ず冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、速度を控えめに運転してください。なお、タイヤチェーンを後輪に装着しても前輪のグリップ性能は低いため、より慎重に運転してください。

■ 走行中の着氷

走行中にはね上げた雪や水は、車に付着して氷になります。フェンダー裏側に付着するとハンドル操作に影響しますのでときどき確認し、大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

駐車するときは

- 寒冷時はパーキングブレーキをかける
とブレーキ装置が凍結してパーキング
ブレーキが解除できなくなるおそれ
があります。
パーキングブレーキをかけないでマ
ニュアル車は①または②、オートマ
チック車はチェンジレバーを③にい
れてください。
- 風の当たる部分は、予想以上に低温と
なります。バッテリーあがりを防ぐた
めにもボンネット側を風下に向けて駐
車してください。
- 降雪時は寒さでワイパーがガラスに凍
りついたりします。
寒冷地仕様車はワイパーアームを立て
ることができまので、ワイパーア
ームは立てて駐車してください。

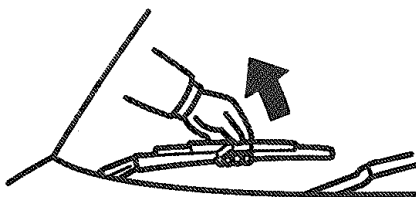
ワイパー

ワイパーの切り替え方

寒冷地仕様車、スノーバージョン車

フロントガラスに多量の雪が積もった場合、ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷することがあります。次の手順でフルコンシールド式からセミコンシールド式に切り替えてください。

- ワイパーアームのフック部を持ち、ガラス面にそって引き上げます。



アドバイス

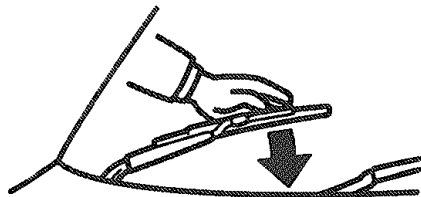
ブレードのみを持って引き上げないでください。ブレードが変形するおそれがあります。必ずフック部を持ってください。



知識

フルコンシールドの状態ワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまると自動的にフルコンシールドからセミコンシールドに切り替わる構造になっていますが雪のたまり方によっては切り替わずにコツン、コツンと音がする場合があります。音がしたらセミコンシールド式に切り替えて取り除いてください。

フルコンシールド式にもどすときはフック上部を手で押します。



寒冷地用ワイパーブレードについて

寒冷地仕様車、スノーバージョン車

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。トヨタ販売店でお求めください。

知識

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない降雪期以外は、通常のワイパーブレードを使用してください。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは後2輪に取りつけてください。
- タイヤチェーンの取り付け、取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取扱書にしたがってください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズにあったものを使用してください。
- 次のサイズのタイヤを装着されている方は、必ずマークⅡ専用トヨタ純正品のタイヤチェーンを使用してください。
 - 225/50R16 92V
 - 205/55R16 89V
 - 205/65R15 94H
 - 195/65R15 91H
 - 205/60R15 91H
 - 185/70R14 88S

⚠ 注意

上記のタイヤで、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店ご相談ください。



アドバイス

- スチールホイールはホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

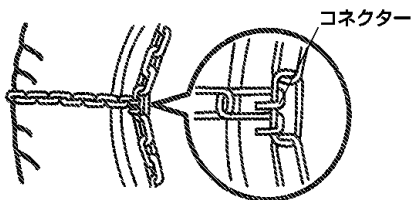
標準的なタイヤチェーン (スチールチェーン) の取り付け方

■タイヤチェーンを取りつけるまえに

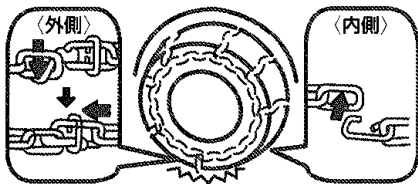
- 1 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。
- 2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。
- 3 マニュアル車は、エンジンを止め、チェンジレバーをⒶの位置にします。オートマチック車は、チェンジレバーをⒷの位置にし、エンジンを止めます。
- 4 必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。
- 5 輪止め、ジャッキ、ジャッキハンドル、フルキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。（196ページ参照）
- 6 タイヤチェーンを用意します。
- 7 フルキャップ装着車はフルキャップをはずします。（201ページ参照）

■タイヤチェーンの取り付け方

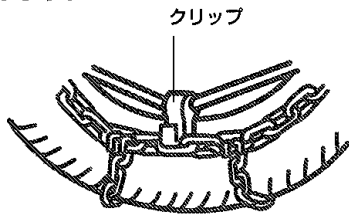
- 1 次の位置に輪止めをします。
左後輪にチェーンを取りつけるとき
→右前輪の前側に輪止めをします。
右後輪にチェーンを取りつけるとき
→左前輪の前側に輪止めをします。
- 2 チェーンを取りつける後輪をジャッキアップします。
(197ページ参照)
- 3 チェーンを路面にひろげて、ねじれがないことを確認します。
- 4 コネクターの折り曲げが外側を向くようにタイヤにかぶせます。



- 5 チェーンの両端をいっばいに引っ張り、内側から先に連結します。
●チェーンが内側、外側のどちらか一方に片寄っていないか確かめ、外側のチェーンもいっばいに引っ張り連結します。



- 6 余ったチェーンは車体に当たるのを防ぐため針金で固定します。
- 7 チェーンバンドはクリップの爪が外側を向くように均等にチェーンにかかけます。



- 8 車体をおろし、輪止めをはずします。他の後輪にも同じようにタイヤチェーンを取りつけます。
- 9 2～3分走行したあとでチェーンのゆるみ、はずれがないか確認します。

⚠ 注意

タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。

👉 アドバイス

タイヤチェーン（スチールチェーン）を装着しているときは、30km/h以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。

■タイヤチェーンの取りはずし方

チェーンを取りはずすときは外側からはずしてください。

ディーゼル車の燃料

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分（燃料計目盛りの1/2以下）にしておき、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。



アドバイス

フェリーを利用する場合は、寒冷地に着いてすぐ寒冷地用燃料を補給できるよう、あらかじめ燃料を半分以下にしておいてください。



	使用燃料		
	JIS2号軽油	JIS3号軽油	JIS特3号軽油
使用限界温度 [※]	-5.0℃	-12℃	-19℃

※環境や使用状況によって異なります。

こんなときは

雨の日の運転

■ガラスの曇りを取りたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンを作動させフロントデフロスタースイッチの  か吹き出し口切り替えスイッチを  にし、内外気切り替えスイッチを外気導入にしてください。

■フロントガラスの油膜を取るとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

夏期の取り扱い

■シーズン前のエアコンチェック

冷媒（ガス）が不足していると、冷房性能が低下します。夏になる前に点検、補充をしてください。

■エアコンの上手な使い方

駐車のと室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけてください。

■炎天下に駐車するときは

ボデーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えてください。